

## 国際会議報告

## 都市基盤施設整備に関する国際会議

## INTERNATIONAL CONFERENCE ON THE DEVELOPMENT OF URBAN INFRASTRUCTURE

邵 春福<sup>1</sup>・浅井加寿彦<sup>2</sup>

Chun-Fu SHAO and Kazuhiko ASAI

<sup>1</sup>正会員 工博 社団法人 システム科学研究所 (〒600 京都市下京区四条通烏丸西入月鉾町 62 住友生命ビル)<sup>2</sup>正会員 技術士 社団法人 システム科学研究所

## 1. はじめに

都市基盤施設整備に関する国際会議 (International Conference on the Development of Urban Infrastructure) が中国杭州市にある浙江大学科学ホールにて、1996年11月18日から20日の三日間にわたって開催された。

この会議は、中国の建設部 (日本の建設省に当たる)、杭州大学及び同済大学 (上海) などの主催で、都市経済と都市交通の著しい発展に適した中国の都市基盤施設整備のあり方への模索と新しい理論と技術の吸収のために、開催されたものである。

このような国際会議は、日本で開催される場合、大学の研究者がメインの参加者となりがちであるが、この会議は実務担当技術者の参加が目立った。

## 2. 会議の概要

この会議では、合計126編の研究論文が論文集に収められ発表された。それらの研究論文の国及び地域の内訳は、中国が98編、日本が15編、香港が7編、台湾が3編、カナダが2編、そしてオーストラリアが1編となっていた。なお、参加者は合計260名、その内訳は、中国から222名、日本から20名、香港から9名、台湾から6名、カナダから2名、そしてオーストラリアから1名であった。

日本からは、近畿大学の佐佐木綱教授 (京都大学名誉教授)、福井大学の本多義明教授 (会議アドバイザー・メンバー) をはじめ20名の方々が参加した。佐佐木教授は開会式でスピーチ、本多教授は基調講演、をそれぞれなされた。

また、会議形式は、午前中は参加者全員がメインホールに集まって同時通訳付で、午後は4つの小会議室に分けてセミナー形式で研究発表が行われた。メインホールでの一件の発表につき、発表時間20分、小会議室での一

件発表につき、発表時間10分がそれぞれ設けられた。

なお、この会議は表に示す7つのテーマを中心に行われた。これらのテーマで集まった計126編の研究論文を分野別に数えると、①は20編、②は15編、③は13編、④は10編、⑤は14編、⑥は31編、⑦は23編であった。テーマ⑥の発表が最も多かったことより、この会議の主旨をうかがい知ることができよう。

## 3. 感想

杭州は、中国7大古都の一つである。北宋の時に詩人で有名な蘇軾が知州 (日本の知事に当たる) となったとき、西湖の氾濫を治め、その景観を取り入れて風光明媚な都市として建設された。「欲把西湖比西子、淡妝濃抹総相宜」(西湖を把って西子 (春秋時代の美女) に比せんと欲すれば、淡粧濃抹総相宜し) は杭州に対する蘇氏の名句である。杭州を散策した際、「島根県の松江に似ている」と佐佐木教授はたびたび言われていたが、日本人にも馴染みやすいところであると思われる。また、近郊の「銭塘江」では、毎年の中秋節に、杭州湾よりの壮観な逆濁流も見られることで有名である。

料理も「叫花鶏 (西湖で取った蓮の葉で包んで湖底の泥を塗り付けて蒸した鳥料理)」、「西湖酢魚」、「龍井蝦仁 (龍井茶漬けのエビ炒め)」などに代表されたように、西湖で取れた蓮の葉、魚、エビ及び湖畔で栽培された「龍井茶」を利用した料理が多く、いずれもレセプションで出されて好評であった。

このように、会議は自然環境に優れ、美味しい料理にも恵まれた場所で開催された。今回のように、参加者数と発表論文数のいずれも、日本からは少なかったものの中国に次ぐ数字となっている。これから、このような会議にさらに積極的に参加されることに期待したい。

また、会期中は、多くの参加者が集まってきたが、時間的に余裕がなかった故か、研究発表だけで質疑討議の時間が設けられなかった。また都合により、論文だけを



写真-1 佐佐木教授のスピーチ風景

表-1 テーマ別の発表論文数

研究テーマ	発表論文数
① New theories, new technologies and new methods on road traffic analysis and design.	20
② Trend and direction of future development of road networks and traffic.	15
③ Theories and methods on planning and design, and management experience on public transportation and large capacity public transportation systems.	13
④ New technologies, methods and experience on traffic management.	10
⑤ New theories, methods and experience on the planning and design of urban access road networks.	14
⑥ New thinking, methods and experience on the development of urban engineering facilities.	31
⑦ New technologies and methods on the planning and design of urban water supply and drainage systems.	23
合 計	126 編

出して発表しなかった人がいたのも残念であった。さらに、会議用語は中国語と英語であり、同時通訳があったが、通訳機械の調子があまりよくなく中国語を理解できない国々の参加者には、不都合があったような気もした。しかし、筆者らがこれまで出席した中国で開催され

た幾つかの国際会議と比較してみると、今回は確かによくなって来ており、これからの中国でのこのような会議の更なる円滑な運営に期待ができそうである。

(1997.3.3 受付)